



想いを言葉に、言葉を意思に ～書道パフォーマンスの取組～ 熊本県立御船高等学校

8月6日、愛媛県四国中央市で「書道パフォーマンス甲子園」が開催され、第10回記念特別枠に選ばれ出場しました。5月に、書道を通じて震災復興へ取り組んでいる本校に是非出演してほしいと実行委員会から依頼があったのです。

映画「書道ガールズ！！私たちの甲子園」の映画化につながった本大会には、全国から37都道府県105校が予選に参加、そのうち選ばれた20校と特別枠1校、計21校が本戦に出場しました。

本校は特別枠ながら他校と競技することになり、休日返上で練習に励みました。

炎天下、中庭での練習



書く文字を選定する際には、限られた紙面で最も私たちの想いを伝える言葉は何か、皆で意見を出し合い議論を重ねました。また同時に書体や全体構成を考えます。構想を練るのに使用した用紙は50枚以上になりました。そうして決まったテーマは「突破」。震災を乗り越え故郷復興を目指す想いと、全国からいただいた温かい支援に対する感謝の気持ちを、書で表現することにしました。



構想した用紙の一部

表現活動では、制限時間の6分間に私たちの想いをどう演技・作品化するか、また書道本来の用筆・運筆の許容を超えず、どの程度パフォーマンスを取り入れるかということに苦悩しました。試行錯誤の結果、本校は「書く」動作以外には一切パフォーマンスを加えないことを決断し、その代わりに、筆先に想いを込めて書く動作、息の合った書き姿や表情、書いた言葉を読み上げる声量、全体の情感などに磨きをかけていくことにしました。生徒たちは、真摯な姿勢で想いを言葉にし、また書くこと通して想いを深めていったと感じています。

作品中央の大字「突破」は楷書（かいしょ）の中でも線や点画の鋭い造像記（ぞうぞうき）の書風を選びました。造像記は中国北魏時代、願掛けのため石窟に仏像を施し、その脇に刻された文字です。「突破」の二文字に私たちの願いを集約するには、この書体の他に無いと考えました。

造像記（拓本）の一部



作品の背景には、右に茶色の帯を、左に熊本城と石垣、枝葉と月を模様付けしました。前者は、短冊状の細長い木片に書かれた木簡（もっかん）をイメージしています。書体も文字文化に則った隷書（れいしょ）で書き重厚さを表しました。後者の模様は、熊本城と石垣には熊本県民の誇りを、枝葉には困難に見舞われても変わらず伸びていく新芽を、満月には人々の温かい絆をイメージして描きました。

木簡の一部



楽曲は、名曲「You Raise Me Up」。“You Raise Me Up あなたが私を立ち上がらせてくれる”という歌詞や、優雅で趣ある曲調が、震災を乗り越えようとする私たちの状況や想いと合致しました。

生徒たちは初舞台ながら精一杯の発表をしました。目標である私たちの決意と感謝を、十分に発信できたのではないかと思います。



二〇一六年四月二度の大地震
 日常は一変し 苦難の壁が
 立ちほだかったけど負け
 困難を乗り越えてゆくんだ
 がんばれ熊本「突破」
 心をついに結末し 故郷復興を目指す
 全国からの温かい支援に感謝
 御船高校書道部

本戦での御船高校書道パフォーマンス作品



「書は言葉を書く芸術」と言われます。自ら想いを言葉にし、書くことを通して想いを深めていく学びは、書道だからできるのではないかと考えます。書道を通して子どもたちが考えを深め成長していく、このような取組を今後も続けていきたいと考えています。